

和光

発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700
国立療養所 奄美和光園
電話 (0997) 52-6311

平成27年2月1日
(2015)

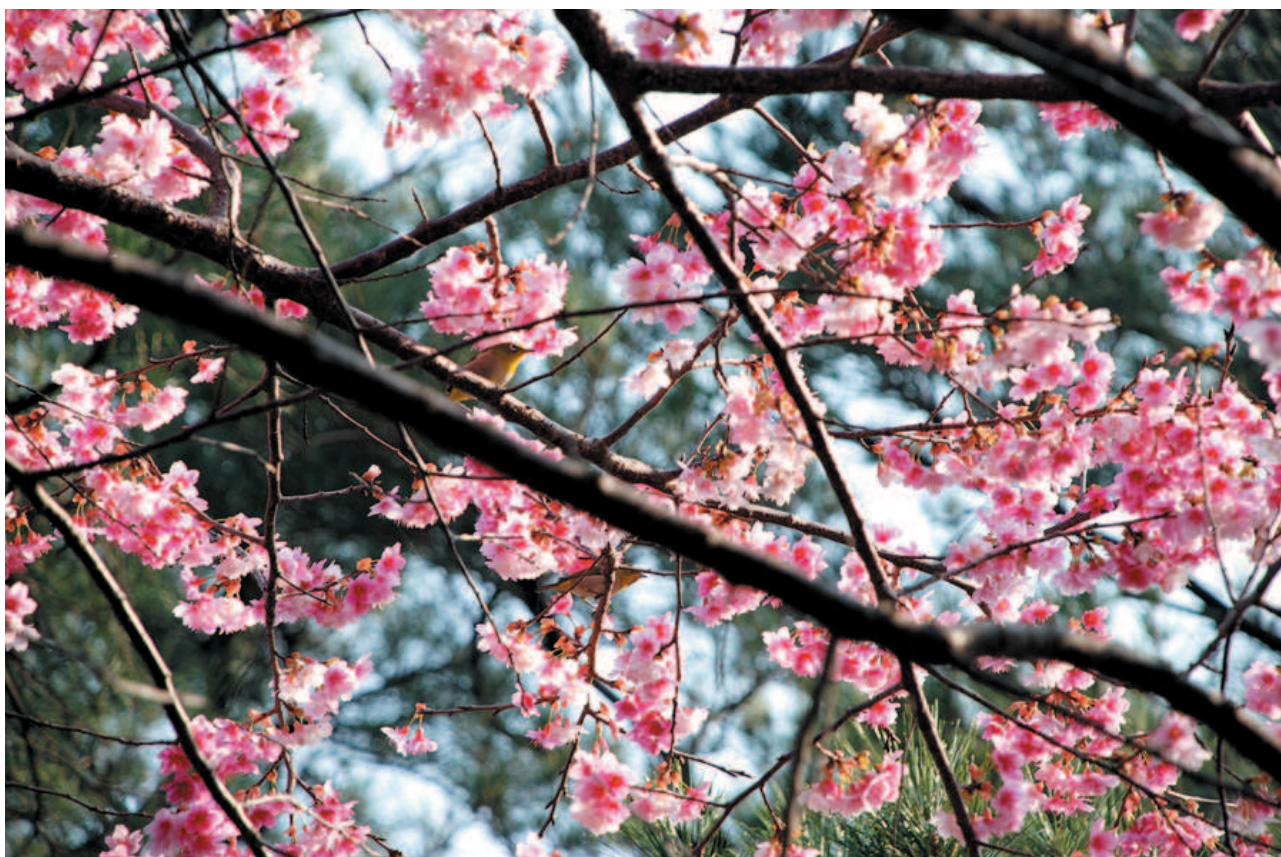
第96号



■表紙	1	■コ・メディカル学術集会	7
■今年の展望	2~3	■県庁訪問・県内めぐりに同行して	8
■377柱の御霊に冥福祈る	3	■クリスマス会を開催して	9
■第170回日本皮膚科学会鹿児島地方会 発表	4	■餅つき会	10
■国立病院総合医学会	5	■「ふるさとお楽しみ便」をお届けしての思い	11
■医療安全職員研修会	5~6	■THINK NOW ハンセン病-グローバル・アビリティ2015-に参加して	12
■ハンセン病療養所看護士研修会	6	■加計呂麻島マラソン走行記	13
■国立ハンセン病療養所介護員研修会	6	■新人紹介・和光園日誌・人事異動・編集後記	14

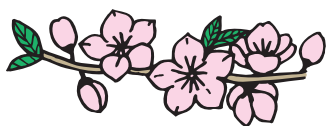
基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。

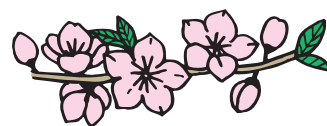


基本方針

1. 入所者個々に応じた医療・福祉を目指します
2. 快適な生活環境と療養生活の充実を目指します
3. 地域との交流を図りハンセン病の啓発活動に努めます
4. 職員の教育・研鑽に努めます



今年の展望



国立療養所奄美和光園

園長 加納 達雄

水平線の彼方から静かに太陽が昇り、新鮮な光を放って、平成27年の幕が開きました。穏やかな年明けは正月三が日も続き、落ち着いた一年の始まりとなりました。ますます昭和が遠くなったと感慨に耽っている間もなく、既に1月の下旬となっています。園内を見渡せば木々の色合いに変化が見られます。緋寒桜がつぼみをつけたかと思うとあっという間に膨らみ、今では緋色の花を咲かせています。バラ科サクラ属で彼岸桜と混同しないため別名寒緋桜とも呼ばれています。花はどれも全開にならずしかも全て俯き加減に（下向きに）咲きます。花の色は濃桃色（緋色）。花の蜜を吸うためにメジロも下向きになります。これが可愛くて印象的です。奄美では、今や短い冬が終わり早春を迎えています。

和光園では、入所者数は35名となっています。私たちは今年も仕事に取り組みますが、昨年と全て同じということにはなりません。今年一年を展望してみましょう。まず現在進行中の病棟工事が完了します。病棟とゆらいの郷が渡り廊下でつながり、両者の一体化した運営の構造的基盤が完成します。これは将来的課題となります。次に、一般舎の建て替え工事が始まります。最遠部にある住宅を桃寮近辺の土地を利用して建て替えます。

これに伴って、桃寮のある地区の“不自由舎棟棟外”という呼称をなくします。この結果、和光園では、入所者の居住区の呼称は一般舎地区だけとなります。昨年の10月にゆらいの郷から治療棟へ介護員の配置換えを行い、一般舎の人たちにも介護を提供することとなりました。これによって、園内では全ての方々へ介護を提供する体制が整ったこととなります。介護の在り方は、常駐型か訪問型に大別され、常駐型はゆらいの郷（不自由舎棟）、訪問型は一般舎という分け方になります。この介護体制を基盤として、命を守り健康を維持する取り組み（医療・看護）、暮らしを支え豊かにする取り組み（介護・福祉）を展開し、入所者の生活に対する満足度を高めていきます。福祉室と看護課の意思疎通や協力体制がなお一層重要となっていきます。また、皮膚科の一般診療も継続し、その診療体制（外来と入院）を支えるため医事部門の重要性も増します。和光園の医療体制（従来からの入所者に対する医療と地域医療としての一般診療）に対する第三者評価として、病院機能評価の2度目の受審を決定し、その準備を始めます。一方、入所者の生活に関してですが、園内行事は例年通り行います。昨年は天候不順や台風の影響もあり、開催場所を屋外から屋内に変更したり、さらには夏祭りやゲートボール大会に至っては中止になったりしましたが、一つひとつの行事が入所者（平均年齢 83.1 歳）にとっては大切な出来事になっていることを考えると、可能な限り開催にこぎ着ける努力をしたいと考えています。この他、季節の催事や園

外へのレクレーション、鹿児島県や奄美市の事業にも多くの参加者を誘い、職員全員で活動を応援したいものです。職員の皆様方には、入所者一人一人の生きがいを高める要因を探し当て、健康を維持し良好な人間関係が保てるよう全力を挙げて取り組んで欲しいと思います。

入所者の方々の様子はここ数年で大きく変わってきました。どの方も比較的元気だったのですが、今では個人差が大きくなってきました。一般舎で生活する人たちといえども例外ではありません。こ

のため、一般舎への介護の提供を始めたのは前述した通りです。今年1年入所者の方々が元気に充実した日々を過ごせるよう、職員の皆様方には精一杯暮らしを支えて欲しいものです。また、開かれた療養所として行事や啓発活動で地域住民を受け入れるとともに、医療機関としても地域に貢献したいと考えています。私たち自身も変化し続けなければならないようです。皆様方のご理解とご協力をお願いします。

377柱の御霊に冥福祈る



遺族、園職員、行政関係者ら約60人が参列して、合同慰霊祭が平成26年11月6日に当園講堂にてあり、この1年間で亡くなられた5人（男性2人、女性3人）を含む377柱の御霊の冥福を祈りました。

最初に、参列者全員で黙とうをささげ、続いて加納園長が「皆さまは今日の和光園をつくってきた。衷心よりお悔やみ申し上げます。」としのび「入所者はハンセン病の後遺症に加え老齢に伴う衰えが目立ちます。時間の流れに逆らうことはできないが、最大限の貢献をしていく所存です。」と述べました。次に、入所者を代表して山田祥相談員が「亡くなった人々の苦難の人生に思いをはせ、安らかにお休みくださることが世の望むこと」と挨拶をしました。遺族代表の福田洋さんは「地域によっては根強

い偏見が残っていると聞きます。人の心のバリアが完全になくることが遺族の切なる願い」と語りました。



続いて、加納園長を始め、遺族、行政関係者、退所者、和光園OB、参列した入所者、職員らが祭壇へ献花をして、その後当園の納骨堂で焼香をささげ、377柱の御霊の安らかな冥福を祈りました。

福祉室 有川 清四郎



第170回 日本皮膚科学会鹿児島地方会 発表

皮膚科専門医の認定資格は5年ごとに更新があり、この5年間の間にノルマがあります。幸いこのノルマは厳しくないため、私は学会発表を1年に1つ、論文発表を5年に1つ、目標にしています。

日々、診療を行う中で、報告例が少ない症例、通常の治療と異なる治療を行ったもの、手術前の診断を異なる結果になったもの、類似の症例が蓄積することでみえる傾向など、他の医師にも見てほしい、類似の症例を経験したことがある医師の意見を聞きたい、などと感じた症例をまとめ、学会にて発表します。新しいことがわかったときや、一般的な経過や治療と異なる症例の場合は論文にて発表します。学会や論文発表に適した症例に頻繁に出会えるわけではないので、常に問題意識をもって診療にかかわる必要があります。2009年（専門医取得）～2013年に学会発表を6つ、論文発表を1つすることができました。

2014年度は、第170回日本皮膚科学会鹿児島地方会（11月30日 鹿児島市）にて、皮膚科一般外来で行っている紫外線療法（尋常性乾癬、掌蹠膿疱症、尋常性白斑、円形脱毛症などが対象）の患者累計36名の統計、また皮膚科一般入院で尋常性乾癬の患者2名におこなった教育入院の概要、2つの演題を発表することができました。それぞれの発表の抄録は以下の通りです。

＜紫外線療法患者統計＞

紫外線治療器2種を用いて、16ヶ月間で36名（男20名、女16名）に紫外線療法を行った。

疾患のメカニズムや紫外線治療器の特徴をよく理解し、紫外線治療においても患者1人1人に合わせた医療が必要である。

＜尋常性乾癬 教育入院＞

尋常性乾癬発症から1年未満で、メタボリック症候群を合併した患者2名に対し、栄養指導を含め教育入院を行った。

＜症例1＞63歳男性、糖尿病、高脂血症合併、体重70kg、BMI 31.2。入院日数16日間、*PASIスコア26.4→6.6（PASI 75）。自炊をせず弁当や惣菜を購入することが多いため惣菜の選び方を指導。

＜症例2＞64歳男性、痛風合併、体重105kg、BMI 37.2。入院日数30日間、*PASIスコア19.8→0.4（PASI 90）。卓上のものをすべて食べてしまうため、過食を防ぐ方法を指導。また摂食以外のストレス解消法を見つけることを提案。

*PASIスコア：乾癬の皮膚症状や体表面積に占める皮疹の面積から重症度を数値化したもの。0～72で評価し、点数が高いほど重症。またPASI 75はPASIスコアの75%改善を表し、PASI 50は臨床的に意義のある改善、PASI 90はほぼ完全な病変消失に相当する。

アトピー性皮膚炎や健常人と比べ、乾癬ではメタボリック症候群の合併が多く、また乾癬登録患者においても、過去と比較してメタボリック症候群の合併が増加している。乾癬に効果的かつ継続的な全身療法を行うこと、積極的な生活指導を行うことは乾癬の悪化を防ぐのみならず、糖尿病や動脈硬化を改善させる可能性があり、他科との連携を密にとりチーム医療を発揮することが求められる。

地域開放の1つとして行っている皮膚科一般診療ですが、発表の抄録は学会誌や論文検索サイトに掲載され、奄美和光園の名前が全国の皮膚科医の目に留まることになります。看護部、コ・メディカル、事務職からの学会発表や論文発表が増えれば、全国の医療従事者や事務職員の目に留まる機会が増え、「奄美和光園は小さいけれど、活気のあるハンセン病療養所」という評価に、さらには将来構想につながる部分があると思います。奄美和光園の名前を全国に轟かせるため、日々の仕事に興味と問題意識を持って臨み、2015年も一緒に自己研鑽しましょう。近場では、第27回ハンセン病コ・メディカル学術集会が熊本で開催されます。是非、各部署から競って演題を出しませんか？

「熊本へ行くばい！」

皮膚科 馬場 まゆみ

学術集会・研修会に参加して（院内・院外）

国立病院総合医学会

平成26年11月14日、15日に第68回国立総合医学会が横浜にて開催されました。今回のテーマは、「次世代に継ぐ医療－元気で明るい未来－」であり、全国からたくさんの演題が出題されていました。

私は、「繰り返し起こる看護師管理薬の与薬エラーの要因分析」についてポスターセッションで発表しました。発表時には、大きな会場と聴講者が至近距離にいる中で少し緊張もしましたが、なんとかハースル通りに落ち着いて発表できました。内服エラーに関する要因は、思い込みや確認不足、確認の段階での行動と指示の照合ができていないなど他の施設と類似していました。与薬トレイを使用し、確認時の場所の確保や看護師2人でのダブルチェックなどそれぞれ対策・評価が違い、改めて当園での課題が見え

てきました。

また、他の施設の研究発表を聴講し、目まぐるしく変化する医療・看護・介護の情報を得ることの大切さ、危機感を持って働かなくてはならないということをあらためて実感しました。今後も探究心を持ち、安全な与薬確立のための業務改善と評価に努力していきたいと思います。滞在中には、同郷の友人らと島では見られない横浜の綺麗な夜景、某先生おすすめ中華料理店など数々食べ歩き、楽しい思い出もできました。

最後に発表の機会と指導して下さいました園長先生、総看護師長をはじめ病棟その他職員の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

病棟 納 春美

医療安全職員研修会



昨年引き続きKYT（危険予知トレーニング）に関する研修会を全職員対象に11月27日に開催しました。当日は看護課15名、他部門10名の計25名の参加があり各部署の職員を4グループに編成し、事例検討しました。今年は導入オリエンテーションを短時間とし、当院で実

際に発生した与薬、検査、外来診察に関連する影響レベル0（ゼロ）のインシデント事例を使用したインシデントレポートKYTを試みました。事例を読み解くまでに少し時間を要してはいましたが職種を超えて問題について話し合うことで、各々の職種がもつ強みを活かしたグループワークとなり交流も深める良い機会にもなったようでした。KYTについて再認識できたという意見もありました。

0（ゼロ）レベル報告はみえない落とし穴を見つける手がかかりとなり、インシデントレポートKYTで個人の気づきや他者の体験を共有することで疑似体験し危険を先取りする力を身につけることができます。また、報告することで自分の行

為・判断を振り返る機会にもなると考えます。これからも職員一人一人のちょっとした気づきや発見から生まれる0(ゼロ)レベル報告を大事にしながら、全職員が気づきのアンテナを高くして入所者の為に仲間の為に、みえない落とし穴を組織で共有できるような活動をめざしていきたいと思います。

医療安全管理者 稲留 朱美



ハンセン病療養所看護師研修会

今回、多磨全生園で10月22日～24日の3日間の看護管理研修の機会を頂きました。研修の中で印象に残った内容として、「ハンセン病医療の現状と看護管理者の役割」(朝戸園長)の講演内容で、病棟・不自由者棟・一般舎の垣根が低くなってきている現状なので、これまでの縦割りの仕事内容では患者様に十分なケアが行き届きにくくなっている。今後、横の連携を今以上に意識していくことが

とても重要になってくるという事でした。まさにそうであると感じました。

今後、看護課・事務部門・コメディカルと連携を強化し、病棟・不自由者棟・一般舎の入所者の方々に介護力の不均等が生じないように、部門を越えての対応ができるよう役割を果たしていきたいと思っています。

不自由者棟 面高 康成

国立ハンセン病療養所介護員研修会

12月3～5日まで沖縄愛楽園において介護員研修に参加させていただきました。本研修の目的は療養介護に関する研修会を実施し介護業務の役割と責任を再認識するとともに業務遂行能力の向上を図ることでした。

ハンセン病療養所における介護員に求められる事として自らが発想、実施する事で仕事の中に生きがいを持ち入所者一人一人の尊厳を守る事が必要であると講義を受けました。その中でも私は「介護は親が教える最後の教育である」との言

葉がとても印象に残りました。相手の立場にたって物事を考え実施するという事を常に意識し関わる事が重要であると改めて感じました。今後も私達は介護のプロとしてどんな状況に陥っても関わり続けていきたいと思いました。

今回、このような貴重な研修の機会を与えて下さいました園長先生、総看護師長さんを始め職員の皆様に心より深く感謝いたします。

不自由者棟 大海 かおり

コ・メディカル学術集会

今回、平成27年1月16日、岡山で行われたハンセン病コ・メディカル学術集会へ初めて座長として出席させて頂きました。各療養所より約200名近くの職員が集まり、それぞれの研究の取り組みやポスターセッションの発表、また特別講演も開催され、とても活気あふれる会場となっていました。

私は終末期についてのポスターセッションを担当し、各療養所において看取りに関する看護や介護、エンゼルケアへの意識調査など、入所者一人一人の思いに寄り添いながら支えていく、そして安心して過ごせるような環境を整えていくという取り組みが発表され、よい学びの機会となりました。緊張しながらも、主催である長島愛生園のスタッフのサポートにより、無事に座長の役割を果たすことができました。

そしてその日の夜は皆と交流の時間が設けられており、それぞれの職員が壇上にあがって療養所の紹介やお国自慢、方言の講習、漫才? など、にぎやかでとて

も楽しい交流がありました。奄美和光園代表としては、まもなく咲く桜や、紬、ハブといった自然の美しさと伝統工芸をアピールしてきました。とても充実した学会となり、今回の学びを今後の看護・介護に活かし、和光園の入所者一人一人が安心して穏やかに毎日を過ごす事が出来るよう、努めていきたいと思ひます。このような機会を頂きありがとうございました。

治療棟 重田 恵理



第26回ハンセン病コ・メディカル学術集会に参加させて頂く機会を得ました。開催地はきび団子で有名な岡山。岡山駅周辺はショッピングビルが立ち並び思っていたより都会的でした。私は1日目の口演発表で「脳血管障害の後遺症がある入所者への生活充実に向けた取り組み」というテーマで半年間の取り組みを纏めて7分間という限られた時間で皆さんに伝えました。多数の看護・介護研究発表の報告で「生活の質の向上」「終末期」に関する内容が多く、今後私達が取り組

むべき課題であることを痛感しました。

特別講演では終末期医療の知識だけでなく、人の生き方や人間の存在など基本的な考え方についての深い内容であり興味深く、今後のケアに生かしたいと思ひました。

貴重な機会を頂き、また発表に至る迄ご指導・ご協力頂いた方々に感謝申し上げます。

ありがとうございました。

不自由者棟 直原 千里

県庁訪問・県内めぐりに同行して

平成26年10月29日から30日の2日間、今年で13回目となります鹿児島県主催の県庁訪問・県内めぐりに2名の入所者の方と参加させていただきました。入所者・付き添い家族・付き添い職員・県庁職員・総勢50名の参加者でした。

初日の霧島神宮では、神宮内周辺の見学で手を合わせお参りをする姿が見られ、一人ひとりの願いが届きますようにと心の中で祈りました。初日の宿泊は霧島ロイヤルホテルで、18時からの夕食・懇談会では、久しぶりに会った友人・知人との楽しげに笑顔で過ごされている姿に同行者の私もとても嬉しく思いました。入所者の方々と、県庁職員、付き添い職員が次々と自慢ののどを披露され、あっという間の3時間でした。

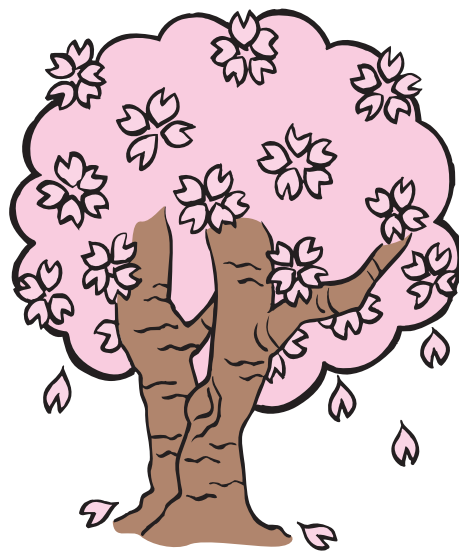
2日目のかごしま水族館では、自由行動で思い思いの場所で時を過ごしました。昼食後には伊藤鹿児島県知事との懇談会があり、入所者の代表が挨拶をされた後、参加されているそれぞれの園の代表者がお礼の挨拶や今後のハンセン病施設の要望等を述べられているのがとても印象に残りました。

奄美から参加される入所者にとっては、10月後半の天気は肌寒いのではないかと心配されましたが、汗ばむほどの天候

に恵まれ体調を崩される方もなく楽しいひと時を過ごす事ができました。当園の職員そして名瀬保健所の職員と連携を図りながら当園入所者和他園の入所者の方々と、共に過ごすことができ、「また来年も会いましょう」とお互いに声をかけ合っていた言葉がとても印象的でした。

この2日間の旅行は入所者にとって久々に会う友人・知人との交流が大変貴重な時間だと感じました。これからも入所者の方々が継続してこの県庁訪問に参加できますように願っています。

治療棟 押川 春美



クリスマス会を 開催して



12月11日木曜日、あすなろホールにて恒例のクリスマス会が開催されました。大きなクリスマスツリーや手作りの馬小屋・イルミネーションなどの飾り付けで、殺風景だったあすなろ会場も、クリスマスムード一色に染まりました。



奄美オーケストラ（有志）によるクリスマスソングで幕が開き、男性師長達が女装キャビンアテンダントに扮し、キャンドルサービスにテーブルを回ると、その美しさ？と色っぽさ？に歓喜の声があちこちで挙がりました。



サンタの園長とトナカイの事務長が登場し、転ぶと起き上がれないくらい丸々とした着ぐるみの大きな豚と狸による進行で、ビンゴゲームがスタートしました。その後、サンタが持つザルに真剣な顔つきでの玉入れ・だるまさんが転んだのゲーム・踊り等で場が盛り上がり、入所者一人一人にプレゼントが手渡され、入所者は普段見せない笑顔で手を叩き喜ぶ姿が見られました。開催後、入所者から「楽しかった」「今までにない迫力があって良かったよ」と短時間ではありましたが喜んで頂く事ができました。

これからも元気で皆さんのたくさんの笑顔が見られますように！

治療棟 サービス委員 政 絹代



餅つき会

餅つき会のお知らせ

日時：H26.12/13(土)
10:00～

場所：あすなろ

当日は、ぜんざいと
かわいい保育園児の体操をお披露目し
ます。より多くの入所者の方々の参加
をお待ちします。

あまみ保育園

プログラム

平成26年12月13日(土)

1. (うた) X'masの鐘
2. (うた) もちつき
3. ミッキー・マウス体操

いっしょけんめい
れんしゅうしたんだぞ!!

あまみ保育園



12月13日午前10:00よりあまみ保育園主催の餅つき会をあすなろホールで開催いたしました。今回、数年ぶりに餅つき会を開催することになりましたのも、日頃元気な入所者Tさんがこのところ口数が少なくなってきたというのを看護課より聞き、また、数多くの台風接近により、いくつかの行事が中止になり、入所者の方々と保育園園児の接する機会がなかったということで、それでは元気の出るイベントをと「保育園園児と一緒に餅つき会をしよう」ということになり今回、計画させていただきました。

当日の餅つき会は、保育園園児による歌とミッキー・マウス体操で幕開けいたしました。一生懸命練習した成果で一糸乱れぬ?! かわいい踊りを披露することができました。これには入所者の方々だけではなく和光園職員にも大きな「元気」をあげることができたと思います。



引き続き、前日より準備しておりました臼(うす)と杵(きね)で餅つきが始まりました。病棟師長のかけ声のもと、保育園園児とその保護者や力自慢の和光園職員によりモチがつきあがり、さっそくみ

んなでつくったかわいい丸いおモチとぜんざいを入所者の方々へ食べていただき、楽しいひとときを過ごすことができました。

「おじいちゃん、おばあちゃん
いつまでも元気でいてね」

保育園園児の元気いっぱいのかげ声が今でも心に響いてます。



土曜日開催にもかかわらず、多くの入所者や保育園の保護者また加納園長ご夫妻はじめ事務職員及び看護課職員の方々に参加していただき大変盛況のうちに終了することができました。また、栄養管理室・調理師及び看護課の皆様方におきましては、前日からの仕込みや当日、朝早くからぜんざいの準備等ご協力していただきました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

私たち保育園におきましても時間の許す限り入所者の皆さんに元気を届けられるよう今後とも行事等に企画参加していきたいと思ひます。

あまみ保育園 園長 広瀬 晃

「ふるさとお楽しみ便」 をお届けしての思い

初春の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は一昨年の4月から担当になり2年目になりますが、皆様には「親子療養所訪問」の行事などへ御協力をいただくなど、日頃大変お世話になっております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



さて、昨年の12月16日に、四元健康増進課長はじめ、大島支庁の県職員2名とともに、「ふるさとお楽しみ便」をお届けにお伺いさせていただきました。

県の行事の一つであります「ふるさとお楽しみ便」は今回で20年目になりますが、「できるだけ喜んでいただけるものを届けたい。」という思いで品選びをしています。

毎年、県内各地域の特産品を詰め合わせてお贈りしておりますが、今回初めてお届けしたのは、「さつまいもスナック」、「ぽんかんやたんかんの果汁入りジュース」、「あご（トビウオ）みそ」でした。

「県産の加工品を食べることができるのでありがたい。」というお言葉をいただき、大変嬉しく思いました。皆様、実際に食されたご感想はいかがだったでしょうか。

私共としては、今後も、御希望に叶うものを準備したいと思っておりますので、御感想や御要望をお聞かせいただけると大変ありがたいです。

また、当日の懇談のなかで、入所者相談員の山田様から現在の奄美和光園の様子や、皆様が園で暮らして来られた写真などを展示する資料館の整備や、地域との交流をさらに深めていきたいという思いをお聞きすることができました。



今後とも、お会いするたびに、皆様のお話をお聞きする機会をもっともっとつくり、皆様からの学びを大切にして、できるだけ多くの方にハンセン病問題を正しく理解してもらえるよう、啓発の方法を工夫していきたいと思っております。

最後になりますが、新たな年を迎え、皆様にとりまして、今年一年が御健康で平穏でありますようにお祈りいたしております。

まだまだ寒い日が続いておりますので、くれぐれもお身体をご自愛ください。

鹿児島県保健福祉部 健康増進課
森木 由美子

THINK NOW ハンセン病 -グローバル・アピール2015- に参加して

1月27日 東京で行われたグローバル・アピールに参加させていただきました。「グローバル・アピール」はハンセン病と差別の問題について世界に訴えるキャンペーンで日本財団が中心になって行われています。毎年1月の「世界ハンセンの日」に、ハンセン病は治る病気であること、差別は不当であることや社会の誤解を解く必要性を発信しています。毎年テーマを決めて開催されていますが、今年度は国の代表者や国際看護協会、日本看護協会など世界の看護協会がこの活動に賛同し、式典に参加された代表者より「グローバル・アピール2015宣言」が行われました。

看護・介護を中心としたパネル・ディスカッションにも参加させていただきました。参加国の現状が紹介され、受診ができず治療が未だに遅れている国もあります。発展途上国を中心に世界で年間20万人もの人々が新たに発症しているデータも示されました。同時に回復者であるにもかかわらず、周囲の偏見やスティグマ（社会的烙印）でその家族も含め差

別され社会復帰できない現状も報告されました。

また、日本からは国立療養所の入所者の方がパネリストとして発表されました。実体験やこれまでの境遇について述べられ、その大変さは想像でしか感じることはできませんが、風化させてはいけないハンセン病の歴史の「語り部」の大切さも痛感しました。

今回のシンポジウムは看護・介護を中心とした討議も多く、その内容から看護職は差別のない尊厳あるケアの発信者であることの期待が伝わってきます。

私もハンセン病看護を担う者として、「何をすれば良いのか」さらに考える機会を頂きました。当園は、入所者の減少と高齢化が進んでいます。私たち職員は入所者の方々の思いと経験を大切にしていこうと、そして一人ひとりに尊厳を持ってケアをおこなっていきたいと考えています。

総看護師長 吉原 由美





加計呂麻島マラソン走行記



馬場先生がニコニコと話しかけてきた。不吉な予感。何かを企んでいる顔だ。

「加計呂麻マラソンに出ましょう」その乙女のような口元から悪魔のささやきが漏れた。奄美に赴任したら体重を5キロ落として練習を積んでと…思いだけは前からあった。が…好物の黒糖焼酎がいつでも賞味でき、うまい豚骨料理などがあり逆に体重は増加の一方である。これではいけない痩せなくっちゃと思ってはいた。その翌日から早朝散歩を始めた。ふうふう言いながら有屋川沿いを歩いているとカラスがゴミ集積場に群がっている。小太り親父をあざ笑うかのようにカアカアとうるさい。「やかましい石投げるぞ」とにらみつけ石を投げるふりをするとさーっと飛び立ち袋に止まった。『やせない』とカラスの足下の袋に書いてある。「カラスまでおれを馬鹿にしやがって、情けない」とよく見ると『もやせないゴミ奄美市』と書いてある。

そのうち少しずつ走る事が出来るようになり徐々に距離を伸ばしていった。そして、単なる飲み会である事前の決起集会を経て、11月9日その日は始まった。6時30分正面玄関前に集合。車数台に分乗し激しい雨の中を20名の和光園選手団は古仁屋へ向かった。古仁屋港からフェリーや海上タクシーに分乗し一路加計呂麻島へ渡る。エントリーは10km男子、10km駅伝、5km男子、3km男子、3km女子である。和光園から3チーム12名がエントリーした駅伝は老若男女40名の10チームであった。

相変わらずの雨模様ではあるが、9時頃は小降りになってきた。スタート前のトイレに行った帰り、足がおかしい…草でも引っかけたかと思



見ると。昔1万数千円で購入したニューバランスのシューズの底が半分以上剥がれている。これでは**アンバランスシューズ**だ。とりあえず膝用に持参したひざ用テープでぐるぐる巻きにした。

しかし降り続く雨の湿気でテープは役に立たない。途方に暮れていると、誰かが駅伝の前走者の山下さんの靴を合わせてみたらと言う。「ボット！合うはずないがや〜」女性の靴が合うはずがない…合った!!まるでシンデレラのガラスの靴のように赤色の靴は敢然と輝いている。我がチームの第一走者は総看護師長、第二走者が補佐、第三走者は山下さん、アンカーは私である。3.5km地点の山中でそば降る雨に濡れながら待つこと数十分第三走者がやってきた。たすきを受け靴を履き替え、我がアンバランスのシューズを託しゴールへと向かった。流石に

上り坂はとぼとぼ歩き、坂を越えるとゴールの放送が聞こえてくる。ひたひたと迫り来る和光園走り隊Cの黒木君の足音を意識しつつ必死で走った。何とか最下位はまぬがれた。

大会が終わって善良な和光園チームは人を押し退けてまで満員のフェリーに乗ることは出来ず、海上タクシーに拾われ夕暮れせまる大島海峡を帰路に就いた。

夕方からは屋仁川の焼き肉屋で打ち上げが始まった。酒の肴に靴底の話を提供しながら焼き肉に舌鼓を打ちこれではまた体重は増える一方だからまた走ろうと…「もやせるゴミ奄美市」の袋にとまっているカラスに投げキッスをして軽快に走り去る姿を夢見ながらジョッキを傾けた。

結果は以上のとおりです。自己タイムを1秒でも更新し健康のため走りましょう。

事務長 中村 仁

駅 伝

和光園A

(猪俣智美・池原賢勇・馬場まゆみ・吉田正巳)

55分41秒 4位

和光園因縁和合

(吉原由美・広瀬 晃・山下ひとみ・中村 仁)

1時間10分16秒 9位

和光園走り隊C

(稲留朱美・福岡昭徳・溜 絹代・黒木貴雄)

1時間10分46秒 10位

10km	米丸淳一	1時間02分02秒
	堀部充孝	1時間06分32秒

5 km	島田登志男	28分52秒
	堀口広文	37分15秒
	福重克章	41分35秒

3 km	仲田ノリ江	25分01秒
	加納達雄	27分39秒
	加納百合子	27分39秒



新人紹介

庶務係 事務補助員 岡 美恵（おか みえ）



1月19日から、庶務係の事務補助員として勤務しております、岡 美恵と申します。出身は指宿の西の方に位置する頼娃町えいです。奄美出身の主人と出会い、結婚と同時に島にやってきました。5年生の息子と1年生の娘の4人家族です。

和光園は、畑やテニスコート、日本庭園を思わせる記念公園などがあり、とても広く、ゆったりとした心地のよい時間の流れを感じます。これから、庶務係共済担当として、覚えなければならないことが山積みですが、和光園の皆さんのお役にたてるよう、ひとつひとつしっかりとこなしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

和光園日誌（平成26年11月1日～平成27年1月31日）

H26. 11. 6	合同慰霊祭
11. 11	施設見学（奄美福祉専門学校）
11. 16	施設見学（厚労省疾病対策課より2名）
11. 19	人権相談（法務局）
11. 20	医療施設立入検査（医療監視）（大島支庁保健福祉環境部）
11. 28	三園（菊池恵楓園・星塚敬愛園・奄美和光園）ブロック会議
12. 2	職員特別健康診断（～4日）
12. 10	衆議院議員総選挙（不在者投票）
12. 11	人事院給与簿監査（～12日）
〃	クリスマス会
12. 13	餅つき会
12. 16	ふるさとあたのしみ便贈呈式（鹿児島県保健福祉部）
12. 19	合同忘年会（奄美観光ホテル）
12. 26	仕事納め式
H27. 1. 5	仕事始め式
1. 13	鹿児島地方法務局来園
1. 20	摂食嚥下研修
1. 29	実習指導者伝達講習会

人事異動（平成26年11月1日～平成27年1月31日）

H27. 1. 16	安江 美衣	共済非常勤職員	辞職
H27. 1. 19	岡 美恵	共済非常勤職員	採用

編集後記

流行語となった「お・も・て・な・し」。奄美の先人はそのことを実践し、言葉として残していました「尊々我無とうとがなし」、我を無くして、尊い想いで人と出会いなさいという教え。3年前の4月、当園着任時、奄美空港着陸前の窓から眺めた奄美の海と空に魅了され、これまで自然に触れ合うアウトドアライフを園内外の地元の方々と一緒に「尊々我無とうとがなし」を肌で感じ、体も心も癒やされました。NHKの加計呂麻島を舞台にしたドラマでは「ここは日本の保健室」との台詞が・・・思わず頷きました。そんな奄美が輝く季節がもうすぐやってくる。

編集委員 福重 克章